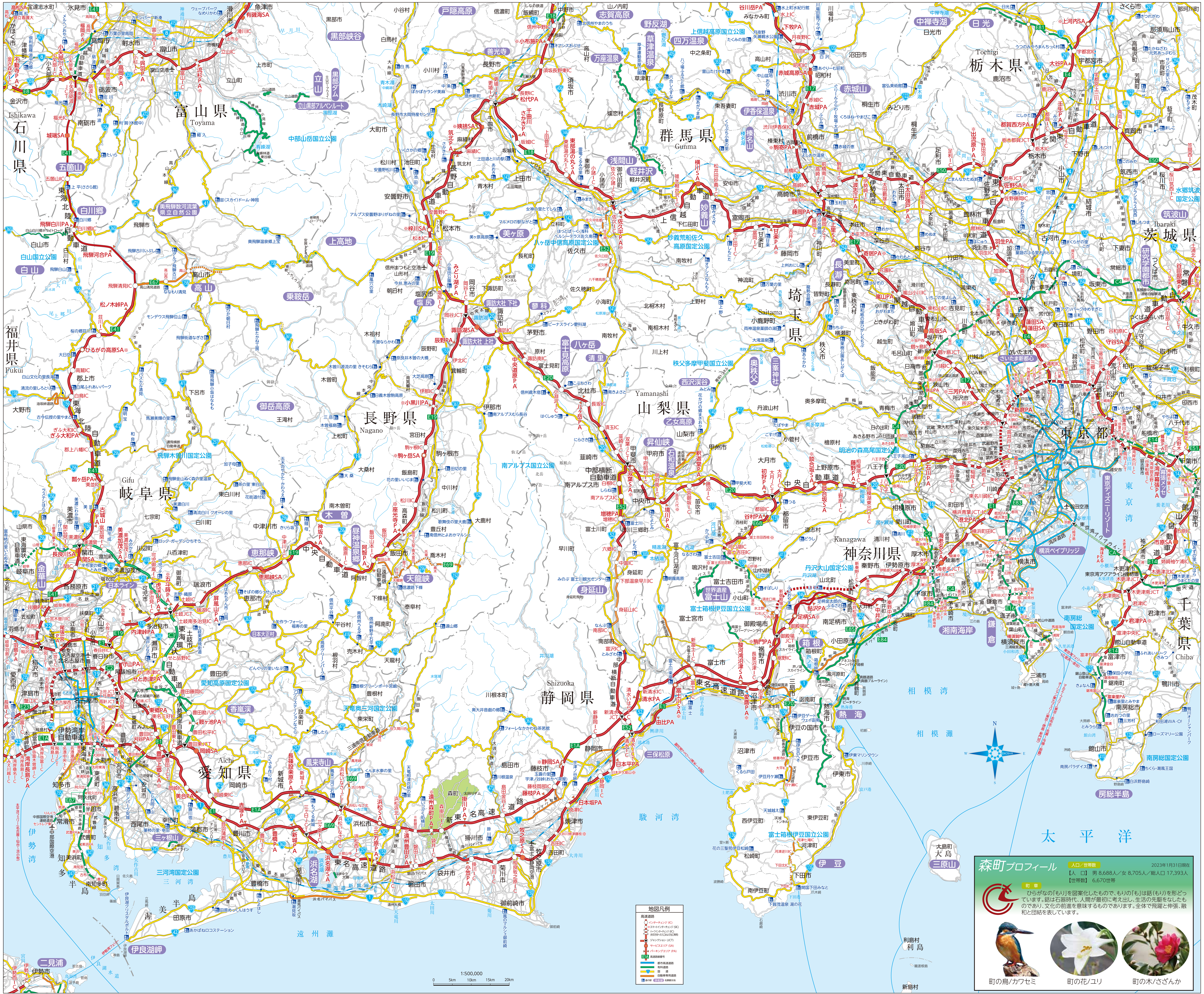


森町プロフィール

人口／世帯数　2023年1月31日現在

【人　口】 男 8,688人／女 8,705人／総人口 17,393人

【世帯数】 6,670世帯

町　章

ひらがなの「もり」を図案化したもので、もりの「も」は銛（もり）を形どっています。銛は石器時代、人間が最初に考え出し、生活の先駆をなしたものであり、文化の前進を意味するものであります。全体で飛躍と伸張、融和と団結を表しています。

町の鳥/カワセミ　　町の花/ユリ　　町の木/さざんか

森町の「まつり」と伝統行事「舞楽」。

練り
舞児還し（まいこがえし）

遠州 森のまつり

江戸時代から続く、遠州路最後を飾る秋祭りで華麗な彫刻を施した14台の二輪屋台が曳き廻されます。伝統の祭囃子が奏でられるなか、夜には屋台どうしの激しい「練り」が行われます。最終日の夕方、若衆や氏子が神社に奉仕した舞児を各町内まで送る「舞児還し」により、森のまつりは最高潮に達します。

遠江 森町の三大舞楽

小國神社の十二段舞楽

国指定重要無形民俗文化財

文武天皇(大宝元年)の御代から今日まで続けられ、連舞、色香、太平楽、安摩、二の舞、納蘇利、獅子舞などの十二段からなり、乱世にも絶えることなく、現在は氏子一同により伝承奉奏されています。

天宮神社の十二段舞楽

国指定重要無形民俗文化財

文武天皇(697～707年)の時代、京都から神官が着任した折、舞楽奉納したことに始まり、色香舞、太平楽舞、二の舞、陵王舞、納曽利舞、獅子舞など十二段からなり、若衆「天社轂」により継承されています。

山名神社の天王祭舞楽

国指定重要無形民俗文化財

明応五年(1496年)、摂津の国四天王寺から伝来。鶴舞、龍舞、蟷螂舞、優填獅子舞などの八段からなり、とくに蟷螂舞は、昆虫のかつらをつけて舞う、全国でも珍しい舞です。

当社之神力 争得 勝之手仰冀

意訳：畏くも恐れ多い小國大神の神力を得て、この戦いに勝利することをただひたすらにお祈りいたします。

（小國神社所蔵　延宝八年古記録 徳川家康公　願文写しより）

当社之神力
争得
勝之手仰冀

家康公の立ち上がり石

戦乱の世、元亀３年(1572)９月22日に「当社(小國神社)の神力に頼らなければ勝つことができない」という切実な思いを込めた願文と名匠「三条小鍛冶宗近」を銘する大刀二振を当社に奉納の上、戦勝・開運を祈願しました。(小國神社 延宝８年古記録より)

次いで、天正３年(1575)、犬居城攻略の道すがら再び参拝し、この石に腰かけて休息されたと伝えられています。

以来、家康公は長篠の戦い・関ケ原の戦いに勝利し、天下統一の大願を叶えたことから「立ち上がり石」と伝わります。

遠江國一宮 小國神社

森町の自然や匠の技が育んだ特産品

治(次)郎柿

森町が原産の治郎柿は、まろやかな風味で「甘柿の王様」と言われています。森町産の極上治郎柿は毎年秋、皇室に献上されています。

特産加工食品

地元産の新鮮な食材をもとに、甘酒、惣菜、手作りハム、ワインなど、森町らしさあふれるおいしさ、なつかしい味を作り上げています。

森山焼

森山焼は小堀遠州七窯のひとつである志戸呂焼の流れをくみ、作風は「炎の芸術」と呼ぶにふさわしい趣で知られています。現在、4軒の窯元があります。

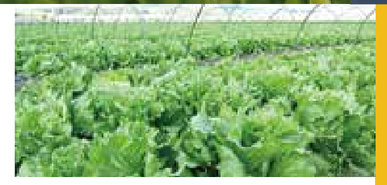
和菓子

「梅衣」「治郎柿羊かん」「みそまんじゅう」「栗むし羊かん」など、森町には和菓子の老舗が多く、種類も豊富で味わいもバラエティに富んでいます。

遠州森の茶

清らかな水と山間の霧など、恵まれた自然条件のもとで栽培される森のお茶は、銘茶産地ならではの自然の香りを大切にした味わいが好評です。町内には個性あふれるお茶の老舗や直売店がたくさんあります。

レタス



森町のレタスは、95%以上が水分というみずみずしさの中に甘みもあり、シャキシャキの食感が特徴です。一面に広がるビニールトンネルは冬の風物詩です。

とうもろこし

メロンにも匹敵する甘さの甘々娘や、森の甘太郎、まっしろなロイシーコーンなど森町のスイートコーンはバラエティーに富んでいます。

広告掲載のお問い合せ・お申し込みは　英公社株式会社　790-0831　愛媛県松山市山田町1386-5　TEL.089-977-9333　FAX.089-977-9345　https://wowmap.jp ◆2023年3月1日調整 **KI:2588 2023.03**

◆この地図は英公社株式会社(版権所有)発行の最も新しい地図を調整したものです。
いかなる形式においても、著作権者に無断で、この地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

◆この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分の1地方図を使用したものである。
（承認番号 平13総使、第295号）